

老舗だからこそ… ゆずれないものがある

佐賀県では、県内企業に対するDXの取り組みの一環として、DXアクセラレータとして伴走することで、経営課題の整理やその解決への取組の企画立案を支援しており、最終的には、企業自らが自走してDXを進めることができるようになることを目指しています。今回は、DXアクセラレータが有限会社井上製麺と行ってきた取り組みについて、代表取締役社長である井上様にインタビューしました。

2023年2月7日

提供/有限会社井上製麺

DXアクセラレータ事業（製造業部門）受託会社/NTTビジネスソリューションズ株式会社

目次

1. DXを進める理由について
2. DX伴走支援の内容について
3. 会社の将来構想について



1. DXを進める理由について

御社の概要を教えてください。



DXアクセラレータ



井上社長

麺の製造と販売を行っています。また、百年庵の飲食事業も行っていきます。百年庵では、素材と味にとことんこだわった、上品で素朴な神埼ならではの料理を提供しています。



佐賀県神埼市の山あいなたたずむ井上製麺の社屋。近隣には美しい紅葉で知られる国の名勝「九年庵」があり、入口付近に据えられた水車は脊振山系の清流を連想させる。



併設されたショップでは、各種製品を取り扱っている。最近の糖質制限需要に対応した低糖麺なども陳列されていた。

井上社長が考える経営に関する現状認識と課題を教えてくださいませんか。



DX アクセラレータ



井上社長

社内に蓄積されている発注書や製造日報などは紙帳票で管理しているため、データ化がされていません。生産、在庫、販売のデータをシステムで管理されていないため、計画生産ができていないのが現状です。



インタビューに答える井上社長。インタビューは清らかな城原川のせせらぎが聞こえてくる百年庵で行った。

データ化されていない現状を踏まえ、DX 伴走支援に申し込まれたのでしょうか。



DX アクセラレータ



井上社長

そうです。デジタル化による業務の自動化で人不足には対応できます。販売データの分析もずっとやりたいと思っていました。そこで、佐賀県のスマート化センターへDXの相談に行きました。そのとき、DX アクセラレータ事業を知り、申し込みました。

以前からDXに取り組みたいという気持ちが強かったわけですね。



DX アクセラレータ



井上社長

はい。デジタル化しているんなことができるので、とにかく早く取り組みたいと思っていました。

DXを推進するには社内のIT人材の存在も不可欠ですが、ITに明るい人材はいらっしゃいますか？



DXアクセラレータ



井上社長

残念ながら社内にはおりません。ただ、今の時代、社員にスマホやタブレットを持たせて慣れてくれば、業務の効率化は出来るようになると思います。色んなツールを導入して一歩踏み出さないと他に遅れをとってしまいます。

2. DX 伴走支援の内容について

ここまでのDX伴走支援の流れと取組み内容を教えてください。



DXアクセラレータ



井上社長

まずは業務フローの整理およびヒアリングを行いました。このDX伴走支援では、販売・購買・生産・在庫を管理できるシステムを構築し、このシステムと社内に蓄積している発注書や製造日報などのデータを連携させようとしています。そして、それらのデータを使って製造販売計画を行う予定です。そのため、今はこのシステム連携に向けた土台作りとして、製造現場の紙帳票の電子化に向けたITツール選定を行っています。

まずは様々な紙帳票を電子化して、その上でそれらのデータを利用しよう、ということですね。ITツールの選定はスムーズに進んでいますか。



DXアクセラレータ



井上社長

「はい。DXアクセラレータに、手書きされた文字をデータ化するAI-OCR (Optical Character Recognition) のデモを実施いただきました。デモの中では、実際の帳票をスマホで撮影・画像変換し、人工知能を持った画像認識ツールで手書き文字がデータへ変換されていく過程の説明とそのITツールの初期設定のデモを拝見しました。



DX 伴走支援の様子。文字通り膝と膝を突き合わせて、DX アクセラレータが井上社長にご提案内容を説明した。



AI-OCRでデータ変換しているデモの様子。運用になった場合を想定して、実際の帳票をその場でデータ化した。

DX 伴走支援の中の IT ツール選定で、心がけていることはありますか？



DX アクセラレータ



井上社長

IT ツール選定では、システム単体で運用せずに、各システムが連携できることを前提にしています。また、データ化されたものがテキスト検索できるかも重要です。あとは、使い勝手も大切なので、社員のレベルで出来そうなものを自らデモ画面を見て、説明を受けるように心がけています。

実際の運用で利用する社員の方のことを考えながらツールを選定されているのですね。DX 伴走支援を振り返ってみてどうでしょうか？

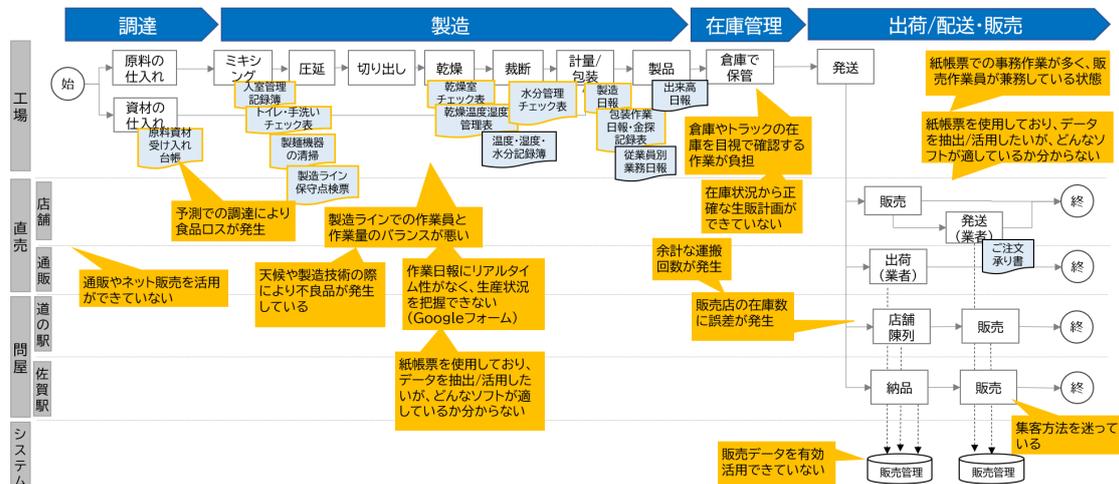


DX アクセラレータ

自分の頭の中で整理されていない業務フローをきれいにまとめて頂けました。DX に向けて具体的にどういうことをやっていくかが分かりやすくなり、非常に助かっています。



井上社長



整理された業務フロー。DX アクセラレータが井上社長からのヒアリングに基づいて、その内容を可視化したもの。可視化された業務フローは、会社の現状や社長の考え方を共有するのに非常に役立つ。

3. 会社の将来構想について

DX の取組みを踏まえて、どのような企業経営を考えているか、教えてください。



DX アクセラレータ



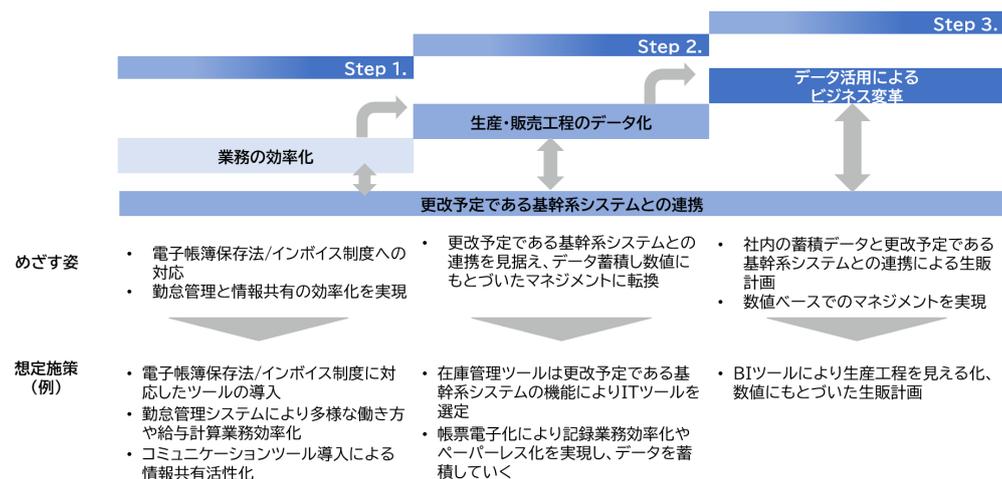
井上社長

社内の蓄積データと新しいシステムとの連携で、これまでの受注生産から計画生産へシフトしたいと考えています。そして、生産性の向上、業務の効率化、販売データの分析によって意思決定のスピードを高め、数値ベースでのマネジメント実現と売上向上の施策やプロモーションの展開などを目指します。

社長の方向性に DX アクセラレータのメンバーはとても共感しています。今後とも一緒にプロジェクトを進めてまいりましょう。本日はありがとうございました。



DX アクセラレータ



DX に関する目標設定と実現計画